

# まちづくり懇談会記録

開催日時	令和2年2月5日(水) 午後2時00分～午後3時5分
場 所	北日本多目的研修センター
出席者等	○市民参加者：男性8名 女性14名 合計22名

## 会 議 の 概 要

### 1 開会 【総務部長 司会進行】

### 2 市長あいさつ

○荻原市長あいさつ

皆さんこんにちは。お忙しい中、そして寒い中、出席いただきましてありがとうございます。昨日から14日にかけて、市内11か所でまちづくり懇談会を開催しますが、今日が二日目となります。また、皆様には、日頃から市政やまちづくりに関しましてご支援・ご協力をいただいていることに感謝を申し上げます。

さて、積雪が少ない穏やかな日々が続いておりますが、このまま少雪の状態が続きますと、とりわけ農業への影響も懸念されます。今後の推移を見守っていかねばなりませんし、必要な手立てについても検討していかねばならないと考えております。加えて、この一月から中国で発生しました新型コロナウイルスの感染が日本国内、そして道内を含めて世界的に拡大しており、収束の兆しが見えない状態です。この予防対策をしっかりと進めていかねばならないと思っております。

そういう中におきまして、本日の懇談会は先ほど司会者からありましたように、市が直面する2つの課題について、今後の取り組みを行って行くうえで、現状をお伝えしてご意見をいただきたい取り組みでいきたいと考えています。

詳細については担当からご説明申し上げますけれども、概括的に申し上げますと、一つは市役所の庁舎の問題であります。この庁舎につきましては、昭和44年に建設しており、50年が経過しようとしています。そして、耐震性も不足してしまっており、芦別は地震が少ない恵まれた土地柄ではありますが、震度6強には対応できなく倒壊の恐れがあるということから、将来にわたって市民の皆様にとって適切な行政サービス、防災の砦という観点からも機能をしっかりと保全していくということが、行政として求められているわけがあります。したがって長期的な観点に立って、建て替えを視野に入れさせていただいて、多大な事業経費を要することもございますので、国の支援をいただきながら、市の財政面も十分念頭に入れて検討を加えて行かなければならないと思っております。

もう一つは市立病院の事ですが、人口の減少、さらには常勤医師の不在といったことから、受診者の減少ということで厳しい環境におかれているところでございます。昨年、厚労省から全国で424の病院、道内においては54の病院を再編・統合の対象に芦別市立病院がなったところで、今年の9月までにその結論について一定の方向を示していただきたいという内容でありました。市民の皆さんから、市立病院がなくなるのではないかと心配の声をお寄せいただいたところですが、市民の皆さんの命や健康を守るという使命を果たす唯一の公立病院でありますので、なくすことがあっては、市民の安全・安心な暮らしに多大な影響を及ぼしかないと思っております。また、先月25日に有識者で構成します検討委員会と一年間かけ検討をいただいたわけでありましたが、そのあり方について答申をいただきました。その答申については、市としてもしっかりと受け

止めまして、市民の皆さんから安心をいただける医療の提供ができるようさらに検討をしていきたいと思っています。可能な限り、今ある医療資源を持ちながら他の病院との連携も視野に入れ、病院を維持・存続させていこうと考えております。そういった意味で、市民の皆さんに支持をされ、そして支えていただける病院でなければならないと思っています。

こういったことを踏まえ、皆様から忌憚のないご意見等をいただき、有意義な懇談の場となりますようにご協力をお願い申し上げ、開会にあたってのあいさつといたします。今日はどうぞよろしくご願ひいたします。

### 3 説明事項【担当者より説明】（資料添付省略）

- (1) 芦別市総合庁舎建設基本構想（素案）について
- (2) 市立芦別病院のあり方検討委員会の答申について
- (3) その他
  - ・北森カレッジの本市での実習について
  - ・新型コロナウイルスの対策等について

### 4 意見交換

#### ○市民

油谷の温泉がオープンして行ったらびっくりしました。料金は高いし、時間制限があるし、オープンの日はずごい人でした。入る時も帰る時も10分は待たないといけませんでした。どうして時間制限にしたのですか。90分なんてすぐに過ぎてしまいます。時間を延ばすとか、料金を下げるとかは考えてないのでしょうか。市民にとって良いところがなくて、今まで来ていた人たちが離れて行っています。3分の1も来ていないかも、赤平や歌志内に流れて行っていると思います。

#### ●副市長

星遊館がオープンして日が浅いということもあります。今までご利用いただいていた星遊館、憩いの場ということだと思いますが、施設の運営が振興公社からホテル&リゾートという民間会社に代わっています。できるだけ皆様が楽しんでいただけるような、そういう施設づくりをしているところで、市が問題としていた星遊館の老朽化、年数が経って表向きの老朽化もさることながら、実はボイラー等の限界が来ていまして、それをリニューアルさせていただきました。星遊館につきましては、まずは経営的な視点で運営をしていただいています。市民の大事な財産ということで健康増進だとか、生きがいだとか、そういう目的も持っています。経営的な部分で言いますと、今回皆様に負担いただいている料金になるのですけれど、このことに関しては相当高いということで、芦別市長から皆さんが少しでも利用できるようにと料金を下げた経緯があります。その中で、長く楽しんでいただける時間の設定と、公衆浴場と同じように利用いただける方と料金を分けさせていただいたところ。90分というのは、ゆったりと楽しむというのではなく、ある程度、公衆浴場と同じようにお風呂を利用する方のために料金を下げてという設定をさせていただきました。今ほど、90分だったら時間が短い、90分にしては料金が高いというご指摘なので、しっかりと検証して、今後、どういう風に行けるか検討したいと思っています。なお、前回の料金から上がっていますので、市民の皆さんには回数券をお買い求めいただければ、600円で利用できることになっています。お仲間がいれば、お金を出し合って利用いただければいいかなと思っています。今まで、公衆浴場と同じような金額で経営していくことは、相当厳しいところがありました。市民の財産ですから、運営を末永く続けて行くためにご理解いただきたいということと、今日いただいたご指摘については、持ち帰

って関係者と打ち合わせを行っていきたいと思います。

○市民

もう少し安くすればもっと行くと思います。

●副市長

まだ始まったばかりなので、平日や休日の入込みなどのデータを調べて検討したいと思いますので、少し時間をいただきたいと思います。

○市民

市立病院のあり方検討委員会の中で、診療体制のところに外来医機能の強化を検討と書いていますが、具体的にはどのような形をとろうとしているのですか。

●病院事務課長

この内容については、あり方検討委員会という外部の答申になり、これを受けての市の方針は検討中でありますので、はっきりとお答えできない状況ですが、ここでいう外来機能として、例えば、整形外科で言えば、月・水・金の診療、外科は常勤の先生がいないので赤平の市立病院から月に2回来てもらっています。そういった中で、患者さんの利便性を考えると、もう少し拡充した方がいいという答申でして、それを受けて赤平だけではなくてほかの先生も声をかけて来てもらうとかを検討していかなければならないと考えています。

○市民

その中で、芦別の個人の病院がだんだん少なくなっています。働いている人たちにとっては、個人病院が少なくなっていることで、会社が休みの土曜日にやっているところが少なくなっています。そういう意味で、市立病院は、公立病院なので土曜日診療をするのは難しいかもしれませんが、芦別の中には週に一回、5時から7時くらいの夜間にやっている病院もあります。仕事を休まなくても病院にかかれるという利点があるのですが、芦別は病院数が増えることはないので、できれば市立病院が全部の土曜日ではなくても月に一回とか、週に一回の夜間診療をしていただければ、そういうことをすることによって、働いている人たちは仕事を休まなくて、自分の行ける時間に行くことができます。そういうことができれば、市立病院にかかろうとする人たちが増えるのではないかと思います。私は、20数年藤島先生にお世話になって、亡くなってからどこの病院がいいか探していましたが、市立病院という選択肢はありませんでした。土曜日やっていない、夜間やっていない、たぶん私と同じ考えの人はかなりいて、今行っている病院に行くと、私の会社の人に来ていと聞きます。5時から7時の間にかなりの人数が来ているみたいで、この様な診療をしていただけると非常に助かるという思いがあります。こういうことを検討内容として考えていただけないかと思います。

●病院事務部長

今いただいたお話については、今後、市の方で方針を出しますので検討させていただきたいと思いますが、土曜日については、現在、医師会といいますか民間にやっていただくということが主であります。市立病院は日曜日をやるという住み分けの形でやってきましたけれども、おっしゃられるとおり、市内の開業医が少なくなり一つの開業医がずっと土曜日をやり続けるというのは負担が大きいということが考えられますので、ご意見を参考にさせていただいて検討したいと思います。

○市民

24時間の訪問看護とあるがどういふなるのでしょうか。また、3年前にスキー場がなくなることが決まっているが、本当に今年でなくなるのですか。

●総務部長

スキー場については、市での経営は今シーズンで終了すると考えています。

○市民

リフトを動かすのに何千万かかっていると聞いています。それだけかけて一冬で終了していいものかと思っています。

温泉に関しては直してオープンしていますが、直すのに5億数千万かかっている、市が2億数千万出しているというのは本当ですか。

●市長

スキー場に関して、一定額の投資をして第1リフトを改修したというのはおっしゃる通りです。私が市長に就任する前、その年をもって閉鎖をするということでした。広くご意見等をいただいて、直ちに閉鎖することが適切かという判断のもとに、3年間は猶予をさせていただいて、その後においてはご理解をいただきたいと、議会を含めてご理解をいただいたところでございます。その時に第1リフトを回収しなければ大変なことになるという状態でした。耐用年数を超えていて、索道の危険度が非常に高く、健全な状態で提供しない限りは、行政がそのことを知っていて危険を改善した中でやらなければ責任問題に発展してしまいます。やはり安全・安心な状態でお使いいただくということが前提ですので、議会の皆さんにもご理解いただいて、確か1千数百万だったと思いますが、予算を組ませていただいて整備をしました。

そういう約束の中で第1リフトをお使いいただくとなっていました。来期におきましては市が関わることはしませんけれど、一方においては、おっしゃっていただいたような施設でありますから、もったいない話であります。また、子どもたちのスキー学習などで使いたいという声もいただいていますので、そういったことを踏まえて事業継承をしていただけるような事業体がないか、北海道とすり合わせながらオファーを待っています。そういう話も一つ二つございます。これは、成就是しておりませんが、そういった部分で繋いでいきたいということで、一生懸命当たっていきたくと思っています。

星遊館については、2年間をかけて5億を投資しました。それは、本体そのものが営業に及ばないものになっていたもので、施設の心臓部を直さずにして、これまで積み上げてきた健康への提供ができないと、星遊館はそういったことで必要な施設であるという判断のもとに、議会の理解をいただいて一定の整備をさせていただきました。

ご質問の財源については、過疎債といまして事業にについて100パーセント借金を認めましょう。そのうちの7割は、国が元利償還の際に補填しましょうという制度があります。したがって、残りの1億5千万は市の財源になります。直ちに金額を要するわけではなくて、12年の償還となりますので、約1千万強を毎年払っていくこととなります。1億5千万を一気に払うということではなく、広く薄く市民の皆さんにご負担を掛けないという中で、選んだ選択肢であるという財源構成となっています。

●病院事務課長

24時間の訪問看護の話がありました。芦別市で24時間の訪問看護をしているところはあります。市の訪問看護ステーション、勤医協で昼間の訪問看護は行っています。それを市の訪問看護ステーションと病院とが一緒になって、24時間の訪問看護をしてはどうですかと答申を受けたということです。病院ができるのか、こういったやり方ができるのかはこれからの検討になりますが、他の町でやっている例がありまして、聞いたところ、登録している方から訪問看護に行ってる看護師が電話を受けて伺い、話を聞いたうえで救急車を呼ぶなどの対応になります。ある程度スタッフがいないと広い芦別をカバーできませんので、体制作りも含めて検討していきたいと思っています。

○市民

あり方検討委員会の中に福祉及び介護に精通する委員とはどういう方なのですか。また、経営コンサルタントとあったがどのような人ですか。

### ●病院事務課長

あり方検討委員会の人数ですが、6名となっています。そのうちの2人は学識経験者という言い方をしていますが、一人は以前、自治体病院の院長をされていて、現在は名寄市立大学の学長をされている方、もう一人は、芦別市の行革委員会の副委員長をされている北海学園大学の教授となっています。それから、芦別の医師会の藤島先生にお願いしていましたが、お亡くなりになったので、以降は橋本先生、そして、野口病院の野口先生の二人が医師会推薦となっています。もう二人については、一人は介護の関係として芦別慈恵園の施設長、もう一人は芦別市の国保の委員会の会長、この6名となっています。

また、コンサルについては、資料の左側、対応策の欄にあります。国の経営アドバイザーの先生に助言をいただいたということで、昨年8月に総務省から派遣をいただいて増収策等の助言をいただいています。その助言を受けて、実践して増収を図っていきたいと思っています。

### ○荻原市長あいさつ

最後まで熱心にお聴きいただき、そしてご質問等もいただき、加えて貴重なご意見もいただいたところで、心から感謝いたします。一つ申し上げさせていただきますと、芦別も来年度から新しい10か年の目標を持ったまちづくりであります第6次総合計画をスタートさせます。この10年後に向けたまちづくりの将来像を「みんなで築く 豊かで住みよい 人と文化の輝くまち」と掲げています。これの元になるのは、ご承知のとおり芦別市民憲章となっています。一緒になってまちづくりを進めていこうという思いであります。この実現に向けましての初年となるのが令和2年度になります。令和2年度の予算が大詰めを迎えておりまして、スタートとなる予算にしっかりと向き合っていかなければならないと思っていますし、着実な前進が図れるように、併せて皆さんに納得いただけるような予算編成に努めて参りたいと思っています。

これからも、皆さんと一緒に考え、力を合わせてこのまちを、地域を元気に、そして前へ力強く歩み続けられるように職員一丸となって取り組んでまいりますので、引き続き皆さんのご支援とご協力をお願いしたいと思っています。なお、札幌管区气象台によりまして、来週10日ぐらいまでは、寒気の影響で気温が低いということです。そして、11日から5日間ほど、気温がかなり高くなる予想となっています。今週から来週にかけては、気温の高低差がありますので、体調管理には十分ご注意ください、ご健勝でお過ごしすることをご祈念いたしまして、閉会に当たりましての挨拶といたします。本日は、お忙しいところ大変ありがとうございました。

### 5 閉会

以上